

令和07年度 第4回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和08年03月27日 午後03時30分～午後04時30分

開催場所 府中警察署 会議室
出席者 協議会委員 8名
署長ほか 4名

内容

会議に先立ち、地域課長の出席について各委員から了承を得た。

[業務説明]

- 協議会からの意見要望の取組結果について
1 警視庁採用辞退者に辞退や併願をした理由の確認を行い、防止策等を講じる必要があるのではないか。

【取組】

- (1) 辞退理由の確認に関しては、警視庁本部の人事担当が行っており、辞退の理由としては、「親からの理解を得られない」ことを挙げる方が多いことから、対策として、警視庁本部の人事担当者が、保護者連絡や保護者に対する説明会の実施を検討している。
(2) 警視庁に入庁する意思を示している方に対しては、各署の採用担当者から電話をするなどして、入校前の不安の払拭、辞退防止に努めている。

- 2 インターネットを上手に活用し、採用活動に芸能人などインフルエンサーを活用したほうがよいのではないか。

【取組】

- (1) インターネットの活用については、本部の人事担当部署がXやLINE等の媒体を活用して情報発信を行っている。
(2) 芸能人ではないが、「銭形警部」や「名探偵コナン」といった、受験対象世代に馴染みのあるキャラクターを採用ポスターに活用している。

- 3 リアルな警察活動の体験を充実させ、体験した小学生等に警察官への憧れを持たせたほうがよいのではないか。

【取組】

- (1) 当署では、市内の公立小学校に対して当署署員を講師とした授業を行っており、地域警察官の一日のタイムスケジュールの紹介、四コマ漫画などを使った分かりやすい仕事内容の紹介等を実施している。
(2) 署内に小学生を招き、小学生に対する警察署見学や職場体験等を実施しており、白バイの乗車体験等には子どもたちも大変喜んでい様子であった。

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
巡回連絡について
(1) 地域課について
ア 地域課の任務
イ 地域課の編成
ウ 具体的な活動内容
(2) 巡回連絡とは
ア 目的と活動内容
イ 実施要領
(3) 受持区について
(4) 巡回連絡の推進施策について
ア 駅前大型ビジョンを活用した広報活動
イ 市役所ロビーにおける出張巡回連絡の実施
ウ 当署受付における巡回連絡カード記載要領
エ 駅前で実施したキャンペーン活動
オ 外国語専門学校学生寮に対する巡回連絡の実施
カ 東京都住宅供給公社での巡回連絡カード記載依頼
(5) 今後の課題について
ア 個人情報管理意識の向上に伴う協力拒否世帯の対策
イ タワーマンション等の巡回連絡が困難な場所に対する対策
ウ 人員不足による「空き受持区」の増加

- エ 若手職員の育成促進
- 2 協議会からの意見要望等
- (1) 巡回連絡に来ている警察官が本当に警察官なのか、その確認をもっと簡単かつ確実にできるようにしてほしい。(その場での110番は難しい場合もあるため)
 - (2) 紙媒体を使って対面で行うことの大切さは理解できるが、世の中はDX化していることから、マイナカードとの連携など、デジタルを駆使した方法を進めてほしい。
 - (3) 巡回連絡カードの認知度を上げるために、マンションの管理組合との連携をより向上させていくこと、あるいは、市役所等信頼できる公共の場所でのイベント等を含めたPRで認知度を上げる施策を実施してほしい。
 - (4) 巡回連絡カードの目的の周知と、実際に受け取っても提出までに至らない方も多そうなので、提出や回収の方法の効率化を図ってほしい。

[その他の意見要望等]

なし

その他

令和07年度 第3回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和07年12月12日 午後03時30分～午後05時00分

開催場所 府中警察署 会議室
出席者 協議会委員 6名
署長ほか 4名

内容

会議に先立ち、警務課長の出席について各委員から了承を得た。

[業務説明]

- 協議会からの意見要望の取組結果について
- 1 大規模災害に備えて提携している事業所や団体を増やして、パートナーシップを拡充するとともに、自治会・自治体との連携を強化してほしい。

【取組】

- (1) 協議会での提言を受け、新たに榊原記念病院とパートナーシップを提携し、提携に伴い、総合警備訓練を実施。訓練には、市役所・消防署等各団体のほか、地元自治会からも多数の出席者を得て、防災意識の向上と、関係機関等との連携強化を図ることにつながった。
- (2) その他、防災キャンプ、水防訓練等に参加し、自治体等との連携を図っている。

- 2 過去に災害時の「SNS等での誤情報」が社会問題となっていたことから、防災無線の活用も視野に入れ、災害時に正しい情報にアクセスできる方法を周知してほしい。

【取組】

- (1) 一般的に信憑性の高いメディアとして、官公庁等の公式アカウントから発信される情報が「正しい情報」と判断できる。
- (2) 災害発生時に「防災コーディネーター」として署員を府中市役所に派遣し、警察が把握した災害情報を必要に応じて防災無線等により地域住民に周知している。警視庁においてもホームページやXの警備部災害対策課の公式アカウントにおいて、防災情報の発信を行っている。
- (3) 「ハッシュタグ拡散希望」等がついた情報源が不明なもの、個人が発信した情報は、真偽不確かな情報と捉えるべきである。「正しい情報」にアクセスできる方法等について、自治体を交えた防災訓練等の際に積極的な周知を行う。

- 3 災害時にどこまで警察を頼ってよいのかわからないので「災害時の警察の役割」について事前に周知させるため、更なる広報を実施してほしい。

【取組】

- (1) 災害時の警察の役割は多岐にわたり、同時多発的に様々な事象が発生することから、警察が行うべき活動が否かの判断が非常に難しい。困っている人が警察の役割ではないからといって通報を遠慮することで、重大な事案や情報が見落とされてしまうという懸念もある。
- (2) 災害時には救助要請や安否確認等様々な通報が殺到し、電話回線が全て埋まってしまふことから、災害時に警察の力を必要とする事案の発生を抑制できるよう、警察などの行政の力「公助」に頼らずとも、一人一人が自分の命を守る「自助」、町会や自治会、企業などの近くにいる人が助け合う「共助」の充実について、防災訓練等を通じて、積極的な広報を実施している。

- 4 警察・消防・市役所・企業等で「拡大協議会」を実施するなどし、災害発生時の役割を確認・明確化してほしい。

【取組】

- (1) 拡大協議会については、毎年府中市主催で「府中市防災会議」が開催されており府中市、消防、自衛隊、刑務所等と有事の際の協力態勢を確認し合っている。
- (2) 役割の明確化について、各機関が主管する役割を確認し、効率的に機能するように、各団体間で情報の共有を行い、協力して事案に対処できるように努める。

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容採用活動について
 - (1) 採用の現況について
 - (2) 警視庁採用試験について

- ア 警視庁の概要
- イ 採用試験について（日程及び試験内容）
- (3) 警視庁の魅力
 - ア 歴史に残る仕事、日本最大の警察組織
 - イ 職種紹介（地域警察）
 - ウ 福利厚生について
- (4) 府中署の採用活動について
 - ア 女性警察官警察署一日体験
 - イ 警察署一日体験
 - ウ 個別採用説明会
 - エ その他の取組について（ウェルカムけいしちょう、リクルート活動）
 - オ 本年度の受験勸奨取組状況
- 2 協議会からの意見要望等
 - (1) 辞退者に辞退や併願をした理由の確認を行い、防止策等を講じる必要があるのではないかと。
 - (2) インターネットを上手に活用し、採用活動に芸能人などインフルエンサーを活用したほうが良いのではないかと。
 - (3) リアルな警察活動の体験を充実させ、体験した小学生等に警察官への憧れを持たせたほうが良いのではないかと。

[その他の意見要望等]

なし

その他

令和07年度 第2回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和07年09月10日 午後03時30分～午後05時00分

開催場所	府中警察署 会議室	出席者	協議会委員 9名 署長ほか 3名
------	-----------	-----	---------------------

内 容

会議に先立ち、警備課長の出席について、各委員から了承を得た。

[業務説明]

- 1 協議会からの意見要望の取組結果について
 - (1) 各種イベント参加者にアンケートを実施することでデータを取得し、フィードバックを行い、各種イベントの実施効果を向上させてほしい。
【取組】各種イベント後にアンケートを実施した結果、参加者の率直な意見に触れることができ、今後のイベントの在り方について再度検討する機会となった。
 - (2) 交通事故発生場所等の危険箇所における交通違反取締りを強化してほしい。
【取組】小学校の通学路等において、可搬式オービスを活用した取締りや通勤時間帯を中心に交差点内での歩行者妨害の取締りを実施した。
 - (3) 自転車用ヘルメットの着用率を向上させるため、学校等と連携し、各種施策を強力に推進していただきたい。
【取組】小中学校の保護者、高校生・大学生に重点を置いた自転車用ヘルメット着用の重要性を訴える交通安全教育を管内の全校で行った。
 - (4) 自転車の交通違反の態様や罰則の内容を周知徹底していただきたい。
【取組】管内企業・自治体等に対する周知活動やマナーキャンペーン時における広報啓発活動を行った。
- 2 大規模災害対策
 - (1) パートナーシップ活動について
ア パートナーシップ活動とは
イ 地域版パートナーシップ活動（府中市）
ウ パートナーシップ活動
（ア）多磨霊園水防訓練
（イ）消防署との合同石割訓練
（ウ）府中市との合同水防訓練
（エ）近隣署との合同水難訓練
（オ）介護施設の避難訓練
（カ）北多摩変電所視察
（キ）トヨタモビリティとの給電車協定
 - (2) 大規模地震対策
ア 大規模地震発生時の警察官の参集
イ 管内の被害状況の把握
ウ 災害警備総合訓練
エ 交通規制
オ 非常用電源装置稼働訓練
カ 地震発生時の警察署の対応等
キ 地震発生時の避難
 - (3) 風水害対策等
ア 風水害時の避難
イ 台風19号（令和元年）
ウ 富士山噴火に伴う降灰について
エ 富士山噴火に伴う発災時に想定される事態

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
 - (1) 災害に強い街づくりについて
ア 自助とは
イ 共助とは
ウ 公助とは
 - (2) 平時からの連携と備え
- 2 協議会からの意見要望等

- (1) 大規模災害に供えて提携している事業所や団体を増やして、パートナーシップを拡充するとともに、自治会・自治体との連携を強化してほしい。
- (2) 過去に災害時の「SNS等での誤情報」が社会問題となっていたことから、防災無線の活用も視野に入れ、災害時に正しい情報にアクセスできる方法を周知してほしい。
- (3) 災害時にどこまで警察を頼ってよいのか分からないので「災害時の警察の役割」について事前に周知させるため、更なる広報を実施していただきたい。
- (4) 警察・消防・市役所・企業等で「拡大協議会」を実施するなどし、災害発生時の役割を確認・明確化してほしい。

[その他の意見要望等]

なし

その他

令和07年度 第1回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和07年06月13日 午後02時30分～午後05時00分

開催場所 府中警察署 会議室
出席者 協議会委員 8名
署長ほか 1名

内容

会議に先立ち、会長・副会長を互選した。
また、交通課長の出席について、各委員から了承を得た。

[業務説明]

協議会からの意見要望の取組結果について
1 ふれあいポリスが作成した防犯や地域活動の冊子を自治会やシニアクラブ等の地域団体に配布してほしい。

【取組】

- (1) 民生委員に1,700部配布し、一人暮らしの高齢者宅の訪問する際に活用してもらっている。
- (2) 包括支援センターに1,100部配布し、11か所ある各包括支援センターの職員が高齢者宅を訪問する際に国際電話休止の申込案内書とともに活用してもらっている。

2 警察業務に対する理解を深めるため、警察署、交番、警察学校等の見学会を開催してほしい。

【取組】

- (1) 当署協議会委員3名が機動隊観閲式を視察(5月21日)
- (2) 江戸川河川敷における警備訓練を視察(6月12日)

3 地域イベントに参加する等、警察と地域住民が気軽に交流できる機会を設けて関係性を構築していただきたい。

【取組】

- (1) 社会福祉協議会、高齢者施設における防犯講話、ふれあい連絡協議会等の機会に出席者に対し、詐欺被害防止、110番の適正利用、巡回連絡の協力依頼と受験勸奨の広報啓発活動を実施した。
- (2) 「ウェルカムけいしちょう」に小学生や幼稚園児を招待して、子供達からの質問に答えたり、パトカーや白バイの乗車体験等を実施した。
- (3) まちづくり府中が主催する「はたらくくるま展」に参加して警察特殊車両の展示を行い、地域住民との交流を深める機会を設けた。

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
 - (1) 春の全国交通安全運動の取組
 - ア 交通安全運動開始前の周知活動
 - (ア) 交通安全パレード
 - (イ) 交通少年団による演奏会
 - イ 交通安全運動期間中の主な活動
 - (ア) 親子自転車安全教室
 - (イ) 新入学児童を対象とした保護誘導活動
 - (ウ) シートベルトコンビンサー体験
 - (エ) 企業と連携した運転支援機能体験
 - (2) 府中市内の交通人身事故の発生状況
 - ア 交通事故の態様
 - (ア) 死亡事故の発生について
 - (イ) 人身事故の年齢別・車両分類別
 - (ウ) 最重要課題としての自転車対策
 - イ 曜日別発生状況
 - ウ 幹線道路別発生状況
 - エ 時間帯別発生状況
 - (3) 自転車の交通秩序の実現に向けた取組
 - ア 自転車乗車中の損傷・発生状況
 - (ア) ヘルメットの着用率

- (イ) 自転車死亡事故の発生場所
- イ 交通安全教育と広報啓発活動の推進
- (ア) 自転車安全利用キャンペーン
 キャンペーン隊長の安田大サーカスの団長安田さんによるヘルメット着用等の広報啓発活動
- (イ) 自転車マナーアップキャンペーン
- (ウ) 各種キャンペーンのメディアによる広報
- ウ 交通指導・取締り強化の推進
- (ア) 自転車利用者に対する交通課・地域課の合同取締り
- (イ) 道路交通法の改正について
- 2 協議会からの意見要望等
- (1) 各種イベントの参加者にアンケートを実施することでデータを取得し、フィードバックを行い、各種イベントの実施効果を向上させてほしい。
- (2) 交通事故発生場所等の危険箇所における交通違反取締りを強化してほしい。
- (3) 自転車用ヘルメット着用率を向上させるため、学校等と連携し、各種施策を強力に推進していただきたい。
- (4) 自転車の交通違反の態様や罰則の内容を周知徹底していただきたい。

[その他の意見要望等]

なし

その他

令和06年度 第4回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和07年03月07日 午後03時30分～午後05時00分

開催場所 府中警察署 講堂
出席者 協議会委員 9名
署長ほか 4名

内 容

会議に先立ち、ふれあいポリスの出席について、各委員から了承を得た。

[業務説明]

- 協議会からの意見要望の取組結果について
- 1 ふれあいポリスの活動を自治体等に積極的に周知し、ふれあいポリスの存在意義の向上を図ってほしい。
【取組】ふれあいポリスの顔写真と活動内容を掲載した広報誌を作成し、市役所や文化センター等において配布依頼をした。
 - 2 ふれあいポリスを複数配置することで活動の幅が広がり、交代時の業務の引継ぎが円滑に行われるのではないかと。
【取組】
(1) 制度上、人員配置は「最大2名」と規定されているため、将来的には2名となるように本部主管課と協議する予定である。
(2) 現在は1名だが、地域課員や防犯協会等の協力団体と連携して活動している。
 - 3 漫画で学べるような、分かりやすい防犯や地域活動の冊子を作成してほしい。
【取組】イラストが得意なふれあいポリスが冊子を作成している。完成後は、包括支援センターや社会福祉協議会等を通じて配付する予定である。

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
令和5年度と令和6年度の協議会における諮問内容を振り返り、現在までの活動経過を説明した。
(1) 幅広い世代に対する交通安全指導について
ア 「子供向けだけでなく、大人に対する出張型の安全教室を実施してほしい」という意見を受けて、スケアード・ストレイト方式の交通安全教室を開催し、高齢者を含む幅広い世代に向けた広報啓発をした。
イ 現在も各種イベント等において、幅広い世代を対象とした交通安全教室を開催し、様々な交通指導を行っている。
- (2) 警察相談ダイヤル(9110)の周知について
ア 「警察相談ダイヤルの認知度を向上させてほしい」という意見を受けて、街頭における警察相談ダイヤルの広報啓発活動を展開した。
イ 街頭における広報啓発活動の年間実施件数を増やして取組を継続している。
ウ 巡回連絡や110番臨場、有線通報受理等のあらゆる機会を通じて、警察相談ダイヤルについて紹介している。
- (3) 採用業務の積極的な推進について
ア 「採用活動について関係団体や地域社会と連携してみてもどうか」という意見を受け、当署において刑務所、航空自衛隊、消防署と合同の説明会を開催した。
イ 子供向けの車両展示イベントや府中刑務所の文化祭に参加して警察車両の展示等を行い、イベント内で採用情報の広報を行った。
- (4) 交差点の事故防止対策について
「白糸台小学校付近の交差点の事故防止対策を講じてほしい」という意見を受けて早急に現場を調査し、下記のとおり対策を実施した。
ア 防犯灯の電球交換
イ カーブミラーの交換
ウ 路面標示の再溶着
エ 自転車ストップマークの再溶着
オ 注意喚起看板の設置
カ 注意喚起ステッカーの貼付

(5) 特殊詐欺被害防止対策について

ア 「署独自の効果的な特殊詐欺の被害防止対策を検討してみてもどうか」という意見を受けて、騙されそうになっている人に注意喚起をしてもらうため、コンビニエンスストアのバックヤードに被害の未然防止に資する内容のポスターの掲示を依頼した。

イ 最近では、国際電話番号を悪用した被害が急増しているため、国際電話を使用することのない世帯に対し、国際電話の利用休止申請を案内している。
(令和7年は開催日時時点で359件の申込みがあった)

2 警察署協議会からの意見要望等

- (1) ふれあいポリスに作成してもらった防犯や地域活動の冊子を自治会やシニアクラブ等の地域団体にも配布してほしい。
- (2) 警察業務に対する理解を深めるため、警察署、交番、警察学校等の見学会を開催してほしい。
- (3) 地域のイベントに参加する等、警察と地域住民が気軽に交流できる機会を設けて関係性を構築していただきたい。

[その他の意見要望等]

なし

その他

詳細な会議録については、各警察署及び警視庁情報公開センターにおいて閲覧することができます。

令和06年度 第3回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和06年12月20日 午後03時30分～午後05時00分

開催場所 府中警察署 講堂
出席者 協議会委員 9名
署長ほか 5名

内 容

会議に先立ち、地域課長の出席について各委員から了承を得た。

[業務説明]

特殊詐欺対策について（前回会議での意見要望を受けた活動結果）

- 1 地域一体となった効果的広報に向けた協力依頼
 - (1) 地域包括支援センター
 - ア 窓口等での被害防止チラシ配布
 - イ アポ電に預金額等を告げてしまった人の短期避難（ショートステイ）受入れ
 - (2) 自治会、民生委員
 - ウ 回覧板へのチラシの折り込み、高齢者宅訪問時のチラシ配布
- 2 詐欺等の電話が掛かってきた際の専門窓口の設置
 - (1) 110番通報により迅速に現場臨場できるため、他に窓口を設置する予定なし。
 - (2) 不審な電話があった場合には、ためらうことなく110番していただきたい。
- 3 電話番号偽装アプリによる被害と対策
 - (1) 被害の状況
 - ア 警視庁全体で、国際電話番号からの詐欺と思料される架電が増加
 - イ 府中市内でも、偽装アプリ使用の有無は不明だが、国際電話番号による被害が4件発生
 - (2) 被害防止対策
 - ア 知らない番号の電話に出ないように、引き続き固定電話対策を推進
 - イ 「国際電話不取扱センター」の紹介・周知
 - ウ 携帯電話の「電話帳登録外着信拒否設定」の推進
- 4 効果的な実践事例
 - (1) 他の地域
 - ウ コンビニの従業員に向けた、バックヤードへのポスター掲示
 - (2) 当署の取組
 - ア Wタックル作戦（当署独自）
捜査員や毎日勤の勤務員がATM警戒と戸別訪問を併行実施
 - イ 防災行政無線による注意喚起（当署独自）
防災無線を活用し、アポ電に対する注意を喚起
 - ウ スーパー等のレシートに注意喚起文を記載
 - エ 特殊詐欺被害防止サポーターの運用

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
「ふれあいポリス」について
 - (1) 概要・目的
 - ア 経験豊富な警察官を長期にわたって同一の警察署に配置
 - イ 地域住民、自治体、行政機関を結ぶパイプ役を担う。
 - ウ 地域の絆の再生と社会規範意識の向上を図る。
 - (2) 要件・運用
 - ア 50歳代の警部補又は巡査部長のうち、人格見識に優れ、渉外能力を有するなどの条件を満たす者から選定
 - イ 運用は署長直轄で、地域総務係に配置され、交番等で制服勤務することなく、私服で勤務
 - (3) 自己紹介
当署ふれあいポリスの経歴、志望動機等
 - (4) 活動の内容
 - ア 防犯講話、協力依頼（巡回連絡、110番適正利用、受験勸奨等）
 - (ア) 病院、自治会、ふれあい連絡協議会
 - (イ) 包括支援センター主催の高齢者地域支援連絡
 - (ウ) 民生委員全体会議
 - イ 各種訓練

- (ア) 学校関係者との不審者対応訓練
- (イ) 市内病院での合同防災訓練
- ウ 広報啓発・情報発信
 - (ア) 特殊詐欺抑止ラッピングバス
 - ・ ふれあいポリスがデザイン
 - ・ 府中警察署長、府中市長、府中市議会議員等がお披露目式に参列
 - (イ) ラジオ番組への出演
 - ・ 「ラジオフューズ」の「防災とまちづくりの時間」で、特殊詐欺の被害防止、巡回連絡への協力等をアピール
 - ・ 当署員の作詞・作曲、ATMでの携帯電話不使用を呼び掛ける「やめようしまおう音頭(ストップ!)」を放送
 - (ウ) 看護学校の防犯イベント(テレビニュースで放映)
 - ・ 110番適正利用、詐欺被害防止、受験勧奨を広報啓発
 - ・ 日本テレビ、テレビ東京が実施状況を放送
- (4) 好事例(公園の常習ごみ捨て事案の早期解決)
 - ア ふれあいポリスが相談を受理し、署内の連携を図る。
 - イ 生活安全課の相談係、不法投棄の担当係を主体に、近隣住民の協力を得て防犯カメラを設置
 - ウ 早朝ペットボトルを投げ捨てる者を確認し、張り込みの結果、当事者を確保
 - エ 約2年間、同様の行為を続けていた当事者に警告した結果、不法投棄は絶無、相談者から多大な感謝が寄せられた。
- 2 警察署協議会からの意見要望等
 - (1) ふれあいポリスの活動を自治体等に積極的に周知して、存在意義の向上を図ってほしい。
 - (2) 活動拡大や円滑な引継ぎのため、ふれあいポリスの複数配置を検討してほしい。
 - (3) 漫画で学べるような、分かりやすい防犯・地域活動の冊子を作成してほしい。

[その他の意見要望等]

なし

その他

詳細な会議録については、各警察署及び警視庁情報公開センターにおいて閲覧することができます。

令和06年度 第2回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和06年09月27日 午後03時30分～午後05時00分

開催場所 府中警察署 講堂
出席者 協議会委員 9名
署長ほか 4名

内容

会議に先立ち、生活安全課長の出席について各委員から了承を得た。

[業務説明]

- 前回会議における意見要望に対する活動結果
- 1 ITやドローン等を活用した犯罪抑止システム
 - (1) AI活用に係る実証実験
 - ア SNS上の規制薬物に関する情報等の探索・分析
 - イ 画像解析による車種判別
 - (2) 無人航空機の更なる運用に向けた取組
 - ア 警察用航空機と無人航空機の連携に係る技術研究開発の推進
 - イ 災害対応をはじめ緊急事態に対処するための性能向上
 - 2 交番の改修と無人対応可能なシステムの構築
 - (1) 令和7年以降、築年数の古い交番を順次改築予定
 - (2) 警察署と不在交番との相互通話が可能なシステムへの改修予定
 - 3 110番映像通信システムの導入
令和5年からスマートフォン等から画像や動画で通報できるシステムが開始
 - 4 防犯カメラの設置推進
 - (1) 府中市の助成制度
令和7年度から、府中市が防犯カメラ設置に対する助成を開始
 - (2) 推進状況
当署生活安全課の働き掛けにより、市内の3つの自治会、3つの公園が新設予定
 - 5 小学校付近の交差点の事故防止対策
 - (1) 防犯灯の電球交換
 - (2) カーブミラーの交換
 - (3) 路面表示の再溶着
 - (4) 注意喚起看板の設置

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
府中市における特殊詐欺の現状と対策
 - (1) 令和6年の被害認知状況
 - ア 都内と府中市の現況
 - イ 被害増加の要因
 - (2) 被害・アポ電件数の推移（府中市）
 - ア 令和4年から令和5年にかけていずれも減少（令和6年は令和5年と同水準）
 - イ 減少の要因として、令和5年2月から開始した「個別訪問による注意喚起」が効果的であったことが挙げられる
 - (3) 手口の推移（府中市）
令和3年、令和4年は「キャッシュカード詐欺盗」が最も多く、令和5年においては「オレオレ詐欺」が増加
 - (4) 府中署による諸対策
 - ア 府中市との連携
犯行予兆電話入電時に防災無線で注意喚起
 - イ 金融機関との連携
 - (ア) ATMでの携帯電話使用者発見時の通報要請
 - (イ) 高額出金者来店時の通報要請
 - ウ コンビニエンスストアとの連携
 - (ア) ATMでの携帯電話使用者発見時の通報要請
 - (イ) POS Aカード（プリペイド式電子マネーカード）購入者に対する声掛け、通報要請
 - (5) 広報活動の推進
 - ア 未然防止協力者に対する感謝状
 - イ 感謝状贈呈式の開催とメディアでの発信

- (6) 今後の課題
 - ア 戸別訪問の継続と防犯意識の向上
 - イ 固定電話の危険性と対策
- 2 警察署協議会からの意見要望等
特殊詐欺対策について
 - (1) 地域包括ケアマネージャー、自治会、民生委員等と連携を強化して、効果的な広報啓発活動を推進してほしい。
 - (2) アポ電等が掛かってきた際に、110番以外ですぐに警察につながるような専門の窓口を開設してほしい。
 - (3) 電話番号偽装アプリによる府中市内の被害の実例、具体的な被害防止対策について知りたい。
 - (4) 他の地域で実践されている効果的な取組を紹介してほしい。

[その他の意見要望等]

なし

その他

詳細な会議録については、各警察署及び警視庁情報公開センターにおいて閲覧することができます。

令和06年度 第1回 府中警察署協議会 議事概要

開催日時 令和06年07月09日 午後02時00分～午後03時30分

開催場所 府中警察署 会議室
出席者 協議会委員 8名
署長ほか 3名

内容

[業務説明]

- 協議会における意見要望等に対する取組結果
- 1 大規模災害発生後の警察の対応
 - (1) 被災地域の治安維持・犯罪防止
 - ア 警察庁が主体となって全国警察から警察官を被災地域に派遣して、空き巣等を未然防止するため、パトロールを強化
 - イ 警察が所有する防犯カメラを被災地域に設置して、犯罪の予防と検挙に活用
 - (2) 避難所での犯罪予防と心のケア
警察職員が避難所を訪問し、相談受理や防犯指導等を実施
 - (3) 情報発信による安心感の醸成
上記のような被災地域における警察活動を警察庁がとりまとめて、ホームページやSNS等で積極的に発信
 - 2 災害発生後の地域住民と警察との協力体制の確立
 - (1) 管内警備業者との交通整理合同訓練(令和5年中)
 - (2) 市民に対する交通整理等の協力要請
市民の安全を確保した上で、警察官の現場活動に対する支援を求めることも検討
 - (3) 災害時協力協定の締結
官民一体となった災害対応のため、管内17の事業所と資器材・給電車の借用や情報提供等に関する協定を締結
 - 3 地域住民との関係構築と自治会への加入促進
 - (1) 当署独自の取組「Wタックル作戦」
巡回連絡のほかに、2人1組で高齢者宅を戸別訪問し、特殊詐欺被害の未然防止を図るなど住民との「つながり」を重視
 - (2) 地域課による「ふれあい連絡協議会」の開催、「ふれあいポリス」の活動
自治会役員等との面談や自治会主催の会議やイベントへの参加によって、警察と自治会との連携を深めることにより、自治会への加入促進に寄与していく。
 - 4 デジポリス等のSNSによる情報発信の認知度向上
 - (1) デジポリス普及のための広報活動
痴漢撲滅キャンペーン、特殊詐欺根絶キャンペーン等を実施
 - (2) マスコミによる発信
看護専門学校でのデジポリス案内等の防犯講話が広く報道され認知度向上に寄与

[警察署の業務に関する意見等の聴取]

- 1 署長から協議会への説明内容
警視庁の今後の展望について
 - (1) 警視庁のあゆみ
 - ア 警視庁創立の経緯
 - イ 警視庁警察学校の変遷
 - ウ 交通警察の歴史
 - エ 地域警察の歴史
 - オ 110番の歴史
 - (2) 進化する警察
 - ア 交通携帯端末
 - イ ピーフォン
 - ウ スマートフォンアプリ
 - (3) これからの警察
 - ア 交番、駐在所設置数の減少
 - イ 外国警察における先端技術を取り入れた施策
- 2 警察署協議会からの意見要望等
 - (1) ITやドローン等を活用した犯罪抑止システムを効果的に活用してほしい。
 - (2) 本宿交番等の築年数の古い交番は積極的に改修工事を行って、交番に警察官が不

- 在でも無人対応可能なシステムを導入してほしい。
(3) スマートフォンアプリから通報できるようなシステムを導入してほしい。
(4) 防犯カメラの設置が進んでいないエリアへのカメラ増設を推進してほしい。

[その他の意見要望等]

小学生の通学路になっている白糸台小学校付近の信号機が設置されていない交差点で小学生と自動車の事故が発生し、住民から不安の声を聞いたので対策を講じてほしい。

その他

詳細な会議録については、各警察署及び警視庁情報公開センターにおいて閲覧することができます。